



「寝ても疲れが取れない」

そんな悩みをお持ちではありませんか？
眠りは疲れを取るためにあるはずなのに、なぜ・・・？
実はぐっすりと快適に眠る方法がここにあるのです

理屈抜きの心地よさをあなたに…ドイツ・ビラベック社の羊毛ふとん

睡眠が浅いと成長ホルモンが充分に出ない

睡眠時には成長ホルモンが分泌されて疲労回復の働きをします。ところが寝返りが多かったりすると、そのたびに脳が反応してしまい眠りが浅くなります。ふとんの寝心地がよいと寝返りも少なくなります。つまりふとんの寝心地 = 安眠というわけです。

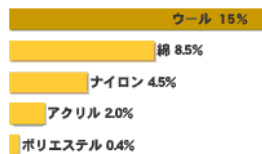
安眠のための寝床内気候って？

安定した眠りのための、ふとんのなかの快適な温度と湿度のことを「寝床内気候」といいます。最適な状態は温度 33℃湿度 50%。これが一番気持ちのいい状態で、人間はもっとも代謝が良く、リラックスできると科学的に証明されています。それに適したふとん素材は羽毛・羊毛・絹などの動物性素材なのです。

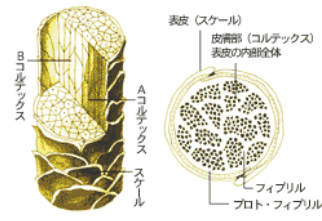
呼吸する生きている羊毛のキューティクル

ビラベック社が作る羊毛ふとんの原料はフランスの上質な、きわめてクリンプ（ちぢれ）の強いウールです。そのウールは最小限の中性洗剤と多量の清水で洗浄されます。その他の余分な加工は一切必要ありません。羊毛はキューティクルが吸湿発散の役割を担っていますが、ビラベックの羊毛は樹脂加工されていないので、羊毛の良さを最大限に発揮します。健康な羊毛の吸湿性は木綿の2倍、ポリエステルなんと37倍もあります。やはり天然素材は呼吸しているのです。素晴らしい！健康を考えるなら断然、天然繊維がベストです。

■繊維の吸湿率(%) <20℃ 65%RH>



■ウールの繊維組織



高級エジプト綿ニットを側生地に使用

ビラベックの羊毛はクリンプが強いため、ダウンブルーフ加工していないエジプト綿のニット生地を使っています。これは通常の100倍以上の通気性があるので、蒸れにくく、肌への感触もやさしく、最高に快適な寝心地を約束できるのです。

えっ！日本は残りものの羊毛でふとんを作る？

今から30年ほど前、一枚のビラベック社の羊毛ふとんが輸入されました。それまで日本には羊毛ふとんの歴史がなかったのです。現在輸入されている質の良い羊毛は、まず服を作るためにアパレル業界に買い取られ、それに適しない残りが寝具として使われているのが現状といわれています。それゆえ、樹脂加工や抗菌加工などお化粧品でごまかそうとするのです。

樹脂加工された羊毛では、羊毛の良さを活かすことができないので意味がない

質の優れない羊毛は、繊維に腰がないので樹脂加工されますが、樹脂加工は羊毛のキューティクルをコーティングしてしまうので、その機能が大きくダウンしてしまいます。また、ウォッシュブル加工と称して、キューティクルを取り除く加工が広く行われていますが、羊毛本来の良さは損なわれてしまいます。さらに側生地にはウールの繊維が出てこないようにウールブルーフ加工がなされます。これでは寝ている間にかく汗は十分に吸湿発散されません。天然素材の良さが生かされないのです。

だから選ばれるビラベックの羊毛ふとん

世界で最初に羊毛ふとんを作った(1948年)メーカーだからこそ、ウールの良さを最大に活かすことができます。



原点に戻れば、そこに答があったのです

本物を探して・・・

1998年ぐらいだっと思います。それまでは日本の有名メーカーの羊毛ふとんを扱っていました。ところがもう一つなのです。当時の状況は今よりはずいぶんマシでしたが、羊毛ふとんはスチーム&ドライ加工と樹脂加工されているものがほとんどでした。樹脂加工した羊毛ふとんは長年使っていると樹脂が剥離して、ホコリになるという問題が出ていました。本物の羊毛ふとんは無いのだろうか、あちこち訪ねて行き着いたのがビラベックの羊毛ふとんでした。

ビラベックは日本の羊毛ふとんの原点

ということにそこで気が付いたのです。何よりもマコトリコットと呼ばれるニット生地 of 気持ち良さが他を圧していました。「そういえば昔の羊毛ふとんは全部片面がニット地だったよね」。それは日本のメーカーがビラベックを真似て作ったからなのですが、いつの間にか通常の生地が変わっていました。ニット生地はクリンプ(ちぢれ)の少ない羊毛やホコリの多い羊毛では使えないのです。

ドイツのビラベック工場を訪ねる

本物の現場を見に行こう! そう思って1999年にドイツ・ビラベック社の工場を訪れました。そこで見たものは、要求水準を満たさないために原料倉庫に返品を待つ原料と、写真は禁じられたものの、何の変哲も無い工場でした。要は良い原料だけを厳選して、不要な加工はせずに作る、という当たり前のことを当たり前として行っていた工場だったのです。ドイツのマイスター魂の片鱗を見せられたのです。

リネン麻を使ってオリジナル

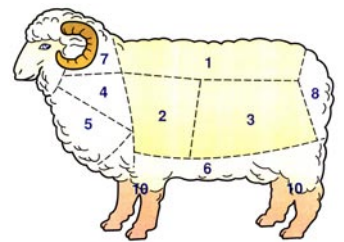
吸湿発散性も保温性も非常に優れたビラベックでしたが、暑い日本の夏には泣き所がありました。さらつとして蒸れ感はずいぶんありませんが、少し熱がこもる傾向にあるのです。それまで裏面に使っていた

綿サテンを麻に代えれば涼しくなるのではないかと2007年1月ドイツ・フランクフルトの見本市に国産の麻生地を20m持込、サンプル品を作ってもらうことにしました。結果は上々、熱のこもりは激減。眠りのプロショップ Sawada オリジナルの羊毛敷ふとん、ベッドパッドの誕生です。現在ではリトアニアのマスターオブリネンの認定工場であるシウラス社にオリジナルの生地を織ってもらい、ドイツの工場加工。全量買取にしたことで、リネン生地を使っても価格を抑えることに成功しました。



リネン麻生地付
オリジナル
羊毛ベッドパッド
シングル 33,000円
羊毛敷ふとん
シングル 53,000円

ビラベックは羊毛わたの良いところだけを使う掛ふとん用は1だけを、敷ふとん用は1~3だけを使い、品質の落ちる部位の羊毛は使いません



↑通気性抜群の
マコトリコット生地
一般の羊毛ふとん用生地に比べると120倍ほど通気性が良いので、羊毛の良さを最大限に活かすことができます。

ケンブリッジ大で証明
羊毛ふとんは良く育つ
羊毛ふとんは蒸れずに快適なので赤ちゃんの睡眠が良く、成長ホルモンが多く出るからだと言われています。

ウーリーな羊毛は早く育つ
赤ちゃんと羊毛の成長が早い
ケンブリッジ大で証明
羊毛ふとんは良く育つ
羊毛ふとんは蒸れずに快適なので赤ちゃんの睡眠が良く、成長ホルモンが多く出るからだと言われています。



ドイツのビラベック本社工場
原料は48時間エージングされる。エアマート社長と。